

2020. 7. 12 (日) マタイ 21 : 14 ~ 17

**21:14** また、宮の中で、目の見えない人たちや足の不自由な人たちがみもとに来たので、イエスは彼らを癒やされた。

**21:15** ところが祭司長たちや律法学者たちは、イエスがなされたいろいろな驚くべきことを見て、また宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と叫んでいるのを見て腹を立て、

**21:16** イエスに言った。「子どもたちが何と言っているか、聞いていますか。」イエスは言われた。「聞いています。『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました』とあるのを、あなたがたは読んだことがないのですか。」

**21:17** イエスは彼らを後に残し、都を出てベタニアに行き、そこに泊まりました。

<説教>

真の神礼拝の場、神を讃美し、神に祈りを捧げ、悔い改め、神に目を向け思いを向ける場であったエルサレムの「宮」（神殿）を、金を礼拝する場、悔い改めなき場、金に目を向け、神から榮譽を奪い取る「強盗の巣」にしていた人々を、イエスは追い出してしまわれました。

イエスはそのように振る舞うことができる権威あるお方、「宮」の主、生ける神の御子キリストでした。

そうやって強盗を情け容赦なく宮から追い出されたイエスは、今度は「目の見えない人たちや足の不自由な人たち」をご自分のもとにお招きになりました。

「宮の中で、目の見えない人たちや足の不自由な人たちがみもとに来たので、イエスは彼らを癒やされ」（21:14）しました。

普段から「目の見えない人たちや足の不自由な人たち」は、神殿に集まって来る人々の施しを求めて「宮の中」にいたのでしょう（生まれつき足の不自由な人が、宮に入る人たちから施しを求めするために毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていたということが使徒 3:2 に書かれています）。

彼らは強欲な商売人にとっては何の利益にもならない者たちでした。

いやむしろ場合によっては“人に見せるために”施しをしてやらねばならないような、宮の中にはいてほしくない、目を背けたい邪魔者だったでしょう。

しかしイエスはそんな「目の見えない人たちや足の不自由な人たち」に目を留め「みもとに」お招きになり、（彼らが「みもとに来た」とはそういうことです）「彼らを癒やされ」しました。

この癒やしのみわざれも、直前に宮の中で売り買いをしている者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛け倒し、「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしている。」と言われたのと同じように、「この人はだれなのか」と言ったエルサレムの人々の問いに対する明らかな答えでした。

イエスは宮の主、「主の御名によって来られる方」、「ダビデの子」、キリストだということ。

かつて母マリヤがほめたたえたように「飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせずに追い返され」る（ルカ 1:53）お方、主なる神だということ。

しかしこのようなイエスの「いろいろな驚くべきこと」（イエスの宮でのみわざとみことば）を見聞きしても、全く頑なで感謝にも信仰にも至らず、むしろ苦々しく腹立たしく思った者たちがいました。

祭司長たちや律法学者たちです。

「ところが祭司長たちや律法学者たちは、イエスがなされたいろいろな驚くべきことを見て、また宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と叫んでいるのを見て腹を立て」（21:15）ました。

大人の群衆たちはどうやら「祭司長たちや律法学者たち」の目を気にして「宮の中」では黙ってしまっていたようですが、「子どもたち」はそんなことにお構いなく「宮の中」で「ダビデの子にホサナ」と叫んでいました。

パリサイ人がイエスに向かって「先生、あなたの弟子たちを叱ってください」と言ったのに対してイエスが「わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」と言われたことがルカの福音書には記されています（ルカ 19:37-40）。

このとき、宮の中では「石」ならぬ「子どもたち」が叫んだのでした。

これがまた「祭司長たちや律法学者たち」の気に障りました。

彼らは「子どもたちが何と言っているか、聞いていますか。」とイエスに言いました。（21:16）

「子どもたちが」と訳されていますが、直訳は「この人たちが」です。

これはイエスがエルサレムに入られたときにエルサレムの人々が「この人はだれなのか」と言ったときの「この人」と同じです。

つまり同じように訳せばやはり「この人たちは」であり、もっと言えば「こいつらは」ということになります。

「こんなに幼く、知恵もなく、何もわかつちやいない、ちっぽけな子どもが何をわけも解らずに『ダビデの子にホサナ』などどほざいているのか。こんなやつらに何がわかるのか」ということです。

そしてそんな子どもたちを止めようとはなさらず、むしろその賛美を喜んで聞いておられるイエスにも「祭司長たちや律法学者たち」は腹を立てました。

それで、イエスに文句を言いました。

「こんなわけのわからないちっぽけな者たちがあなたに向かってダビデの子などと言っているのが聞こえているのなら、あなたはどのように黙っているのですか。どうしてこの者たちを叱って黙らせないのですか。あなたがこの者たちの言っているようなダビデの子、キリストでないことは私たちにわかっています。」と。

それに対してイエスは言われました。

「聞いています。『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てら

れました』とあるのを、あなたがたは読んだことがないのですか。」と (21:16)

「幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました」というのは詩篇 8:2 からの引用です。

「幼子たち乳飲み子たちの口を通してあなたは御力を打ち立てられました。あなたに敵対する者に応えるため復讐する敵を鎮めるために。」(詩篇 8:2)

ヘブル語原典では「御力」となっているところを七十人訳(紀元前3世紀ごろのギリシャ語訳旧訳聖書。新約聖書内の旧約引用はこの七十人訳によっている)では「誉れ」または「賛美」(欄外注)と訳しています。

「あなたがた大人が、自称信仰があり知恵があり力がある者たちが見下し、小馬鹿にしている、小さく弱い『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して』神が誉め称えられ、神に栄光が帰せられることが神みこころなのです。今それがわたしに対してなされているのです。だからわたしは神であり、殊に子どもたちが言っているように「ダビデの子」、キリストなのです。それは詩篇を通して神が語っておられることなのに、その詩篇をあなたがた宗教学者、学者は『読んだことがないのですか。』」そうイエスは言われました。

もちろん彼らは何度も読んでいたでしょう。

もし彼らが本当に、真の信仰をもって読んでいたなら、子どもたちが『ダビデの子にホサナ』と叫んでいるのを見て腹を立てるなどということはなかったはずです。

むしろ子どもたちがそう叫んでいるゆえにイエスがダビデの子、キリストだと悟ったはずでした。

しかし、彼らにはイエスを信じ、受け入れる信仰がありませんでした。

彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしない者たちでした。

こうしてイエスは詩篇 8:2 の後半にあるように、イエスに敵対する者たちに応え、かれらをお鎮めになりました。

先に宮の中で商売人たちを退け、目の見えない人たちや足の不自由な人たちを受け入れられたイエスは、やはり宮の中でパリサイ人や律法学者たちを退け、「ダビデの子にホサナ」と叫ぶ子どもたちを受け入れられたのです。

以前にイエスは「あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。」と言って父なる神をほめたたえられました。(11:25-26)

ここでもイエスは「幼子たち、乳飲み子たちの口」に賛美のことばをお与えになった父なる神のみこころを受け入れ、神をほめたたえ、子どもたちの賛美を喜んでお受け入れになりました。

そして不信仰で心頑なな「彼らを後に残し、都を出てベタニアに行」かれ(21:17)ました。

そうやってイエスは更に父なる神に従順に、十字架への道を歩まれたのです。

私たち、小さく弱く知恵なき愚かな者の口にも、このイエスを生ける神の御子キリストと告白し賛美する信仰を、言葉を神が与えてくださったことを感謝して、ますます喜んでイエスを告白し、賛美して歩みたいと心から願います。